

弱視児が見やすく使いやすい文房具を工夫するために

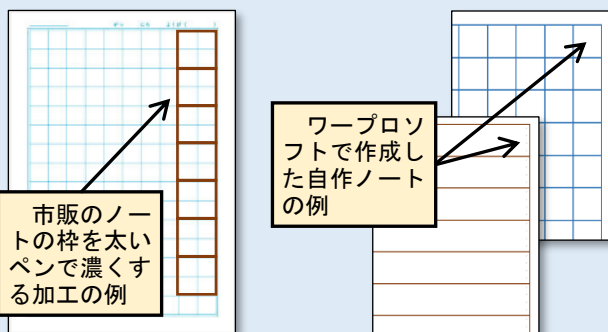
弱視児にとって、学習の際に使う文房具は、見やすく使いやすいものを用意する必要があります。

そこで、一人一人の見え方の状態に応じて、使いやすさを確かめながら、市販のものを加工したり、自作したりするなど、文房具に関する工夫の例を紹介します。

弱視児が見やすく使いやすい文房具に関する工夫の例

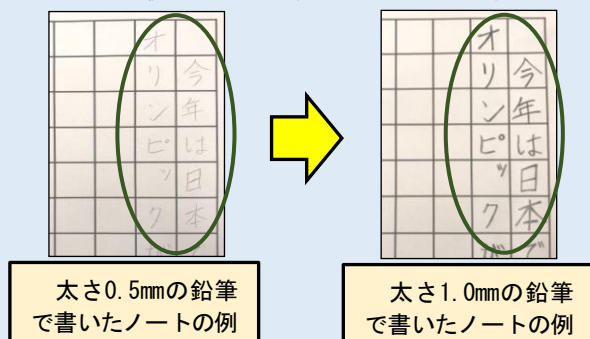
ノート

困難さ：ノートに書く際には、罫線が見えにくいなど。
対応：・市販のノートを加工する。
・パソコンでノートを自作する。



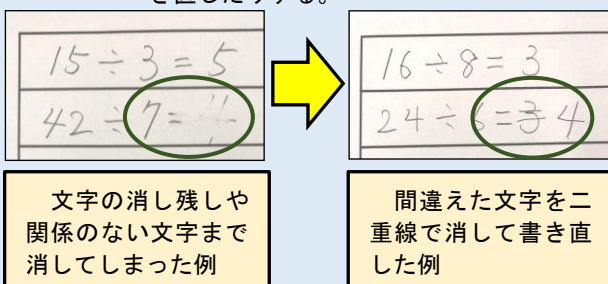
筆記用具

困難さ：文字を書く際には、細部まで見分けられないなど。
対応：・濃い鉛筆や、太い芯のシャープペンシルの使用。太くて濃いインクのペン等で書く。



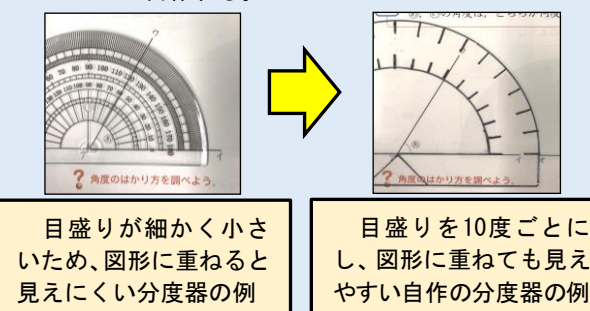
消しゴム

困難さ：文字を修正する際には、余計な文字も消してしまう、消しかすが見えにくいなど。
対応：・先の細い消しゴムや、消しかすがまとまる消しゴムを試す。
・×印や二重線で消して、隣や下に正しく書き直したりする。



定規、分度器

困難さ：長さや角度を測る際には、分度器を図形に重ねると見えにくくなる、細かい目盛りが読めないなど。
対応：・プラスチックの板などで、定規や分度器を自作する。



チェックリスト 見やすく使いやすい文房具を工夫しましょう。

- ☐ 弱視児が見やすく使いやすいように文房具を工夫していますか。
 - ➡ 文房具は教科の特性や一人一人の見え方に合っているか確認しましょう。
 - ➡ 一つの文房具を万能に使うのではなく、用途に合わせたものを準備しましょう。
- ☐ 文房具の使い方を練習していますか。
 - ➡ 初めて使う文房具は、学習に入る前に使い方を練習しましょう。

「弱視の児童生徒への指導方法等の在り方」について研修ができます。

北海道立特別支援教育センター 電話 011-612-6211

